

音が「意味」するものとは 11

『言霊革命』

文 光吉俊二

text by Shunji Mitsuoyoshi

日

本語には、心的表現が4500語あることを大学院生時代に調べた。そして、それに相当する英語表現は、調査に使った日本語辞書の10倍の語彙数をもつ英語大辞典を使っても223語しかない。

すなわち、日本語は極めて高度に人間の心理を表現する能力を持ち、主語がないまま会話を成立させることができるため、対立を生じない。

唯一の弱点である論理性の欠落は、「自己」表現がない客観的主語を使うことで日本語の協調性を生かし、「論理性を兼ね備えた構成」に進化させることができる。

従来の日本語を「自己表現のない客観主語」と「論理性を兼ね備えた構成」に進化させた「新日本語」は、すべての人類を統一しながら、対立を生み出さない。なぜなら、数学はバビロニアの時代から世界共通語で、今やコンピュータを通して世界を制御している。

ならば、数理特性をもつ新たな日本語基本システムにより、人間の深い心理状態を再現することが初めて機械でできるようになる。私はこれを「言霊革命」と命名している。

今、私の研究所に世界中の研究者や医師が毎日のようにやってきて、このシステムを学ぼうとしている。当然、深い内容になればすべて日本語を使う。

世界共通言語とは、世界中の誰でも使えることが条件になるが、世界でも最も難しく、微妙な抽象的表現の多い日本語は、その対極にある。

やがて、私たちの研究グループは世界に「人工感性知能」と「心のレントゲン技術」を発表することになる。そして、その技術者はフランス人でも中国人でも米国人でも「どういたしまして」「おさきにどうぞ」と、主語を使わないで謙虚にコミュニケーションできる優れた人々であるだろう。

この新日本語基本システムこそが、「人工感性知能」と「心のレントゲン技術」を生み出した言霊そのものなのだと未来の世界史は記述するだろう。

ところで、世界中で日本人だけが「妻が家出をした」と言わずに、「女房に逃げられた」と主語を省いた受け身型の表現をするらしい。ここに日本語の特徴が表れている。

Profile

日本の情報工学者であり彫刻家。北海道札幌市出身。多摩美術大学美術学部彫刻科卒業。徳島大学大学院工学研究科博士後期課程修了、現在、博士(工学)。元スタンフォード大学バイオロボティクス研究所 Visiting Scientist (客員科学者)。現在、東京大学非常勤講師、株式会社AGI代表取締役である。専門は、ST (Sensibility Technology) 感性制御技術・VER 音声感情認識技術、音声脳神経分析技術。

